平成26年(2014)

阿づまの光

6月号・Junio

題字出口直日

通巻第543号
発行大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

大本は宗教にあらず神(かむ)ながら
天授の真理説く道にぞある

出口王仁三郎聖師

五代教主作 灰釉茶盌 銘「鬼門島」
[金龍海沓島土・本宮山松釉]

夏期学級から学ぶこと

愛善宣教課主事 鈴木林太郎(すずきりんたろう)

「信者さんの子供を、小さなうちから神さまを信じる立派な日本人にしなければなりませんし、立派な人を世に送り出さねば大本も発展しません」(二代教主さま)

今から六十以上前に、綾部でうまれた夏期学級には信者さんの子供をはじめ、町に住む一般の子供も大勢参加したと聞いてます。

最近の夏期学級に参加した、子どもたちの感想文(抜粋)を紹介します。

「大人になっても習ったことを使っていきたいと思います。来年も、再来年も、もっと大本のことを学んで、みんなの手本になれるような人になっていきたいです」(小学三年生)

「四つの恩を習いました。一つは天の恩、一つは父母の恩、もう一つは国の恩、最後は衆生の恩で、みんなに感謝されたら恩返ししようと思いました」(小学四年生)

「学んだことは、感謝の気持ちをちゃんと〝ありがとうございます〟と伝え、言うことです。その感謝の気持ちを大切に、明日からも生かしていきたいです」(小学五年生)

感想文の中で、一番多く使われるのが〝ありがとう〟という言葉です。どれも素直な反省と明日からの目標が綴られています。信仰生活の中で大切なことは、感謝と省みることではないでしょうか。青年部時代、夏期学級に参加した子供たちから、そのことを学びました。

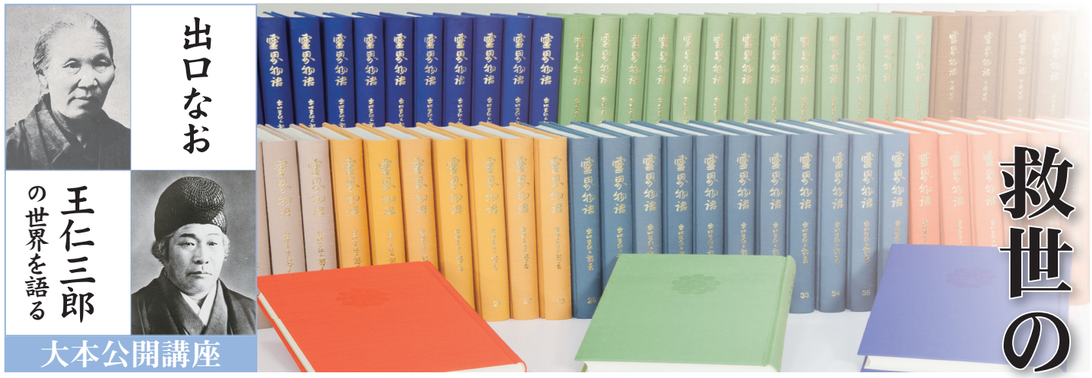
実は、前述の感想文を書いた三人は、全員信徒ではありません。この蔭に毎年「楽しいから一緒に行こうよ」と誘ってくれる信徒の子供たちがいます。彼らは立派な宣伝使です。私は〝信仰を継承する者が、み教えを世に伝える〟と思っています。

冒頭の二代教主さまのお言葉のように、将来の日本、そして、世界を担う青少年を育てるために、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。

「阿づまの光」2014.06.indd 1 14/05/22 12:03

救世のプログラム

～出口王仁三郎と霊界物語～



講師 猪子 恒（いのこ ひさし）
（東京宣教センター次長）

救世の神業とは

出口王仁三郎聖師は、『かむながら神のまことのみ教えは愛善世界の提唱なりけり』と詠まれました。〝愛善世界〟は〝みろくの世〟〝元の神世〟とも言い換えることができます。

人の精神を〝元の神世〟に戻すこと、言い換えれば、神の御心に叶った生活の実践が、大本神業の根幹です。

みろくは、漢字で弥勒（みろく）と表し、聖師は〝いよいよ、革（あらた）む（め）る力〟と解説しています。王仁三郎は、みろくは法身（ほっしん）、応身（おうしん）、報身（ほうしん）と三つに分けて現れると説きました。

法身みろくは至善、至美、善一筋の神と説き、出口なお開祖に、そのはたらきがあります。

聖師自らは、応身みろくと宣言し、そのはたらきは、善悪を超越し、人のそしりや悪口を気にすることなく、世のため、人のために身を捧げることです。

例えば、泥棒を改心させるには、自分も泥棒になってみるというのです。そうして「泥棒は気が引けるじゃないか。こんなつまらないことはやめよう」と諭して、泥棒と一緒に道を改める。これがまさに応じるという、応身みろくであると説いています。

そして、報身みろくの時代が〝みろくの世〟となりますが、そこに至るには、風水火に加え、人が引き起こす、飢饉、流行病、戦争など、いわゆる大峠が来ると、大本では明確に教えられています。

王仁三郎の預言

冒頭で述べたように、人心が〝元の神世〟に戻ることが、みろくの世の姿なのですが〝みろくの世〟とはどういう世界か、聖師は様々な預言をしています。その一部を紹介してみたいと思います。

①気候が整う

昨今は、異常気象が続いてますが、人の心が穏やかになれば、気候も次第に整ってくると預言しています。

古くは〝五風十雨〟というように、五日に一度風が吹き、十日に一度雨が降るような、秩序正しい気候が、日本の国土に適していると言われています。

②天産物自給の生活となる

現在はお金や物中心の社会ですが、みろくの世になると祭政一致、経済は土地本位となり、これが天産物自給です。

世界中が、万物の親である神をまつり感謝を申し上げ、土地も、衣食住も神からいただいたという考えで生活するようになるということです。

従って農業が仕事の中心となり、他のものは、お金ではなく人を優先する技術革新によって、すべてが飛躍的に向上し、労働時間は一日一時間で足り、貧富の差も少なくなると預言しています。

③空中文字・飛行機・弾丸列車

鉛筆や万年筆の必要はなくなり、指先で文字を記せば、直ちに相手に届くと預言しています。これは携帯電話などのさらに進歩した姿ではないかと思います。

飛行機にいたっては、墜落せずに、操縦も自由自在になり、東京・大阪間を一時間で走る弾丸列車が誕生するとも。

その他、寿命が長くなる。無尽蔵のエネルギーが開発されるなど、様々な預言をしています。

高熊山修行と『霊界物語』

聖師は、明治三十一年旧二月九日から一週間、丹波の穴太（京都府亀岡市）にある、高熊山で修行されます。

寒空の中を襦袢（じゅばん）一枚で、水一杯飲まず、一食もせず、岩の上に静座して無言の状態で過ごす中で、人、動物、そして万物に対する慈悲心、感謝の心を発芽されます。

現界の修行のみならず、神界の修行もありましたが、二時間の現界の修行より、一時間の神界の修行の方が、数十倍も苦しかったと後述しています。

その間、天眼通（てんがんつう）、天耳通（てんじつう）、自他神通（じたしんつう）、天言通（てんげんつう）、宿命通（しゅくめいつう）など、俗にいう超能力の大要を会得し、大本の教義を確立されます。

その内容は二十三年間封印され、大正十年に、神のお許しを得て著したのが『霊界物語』です。『大本神論』と並ぶ二大根本教典といわれ、全八十一巻、八十三冊に及びます。

『霊界物語』は、聖師がご口述されたものを、側近が筆記していくという形で進められます。筆録者がどのように書こうか迷っていると、聖師が「そこはこう書きなさい」とか、「句読点が間違っている」など指摘もあったそうです。

また、ご口述が寒い冬であっても、場面が南洋であれば、聖師は「暑い、暑い…」と言われ、その反対もあったと聞きます。

参考書を一切使うこともなく、蜘蛛の糸がすーっと出てくるように口述されます。

『霊界物語』は膨大ですから、あらすじを端的に述べるのは、難しいのですが、一貫したテーマは〝みろくの世を来たす〟ということで、〝元の神世〟に戻すためのプログラムが、示されていることです。

それについて、宇宙の創造から神々の活動、大本出現の意義、神と人との関係をはじめ、政治、経済、芸術、教育など内容は多岐に渡りますが、極論として〝みろくの世〟実現のためには、人の心を変えねばならないと論しています。

逆に言えば、人の心に神の愛と智を伝えるのが『霊界物語』であるといえます。

何か困難が降りかかっても善を思う、あるいは、神を信じて誠を尽くす。こうしていくと、悩みや苦しみから離れていくのです。この善、誠、人間の徳が人生を、世の中を変えて行く力になるのです。

口述される出口王仁三郎聖師（中央）

『大本神論』が、実直に「ああしなさい、こうしなさい」と示しているのに対し『霊界物語』は、読み進める過程において、執着がとれ、自然と善の方へ導いてくれる教典といえます。

型の出る大本

大本で起こったことは、やがて日本へ、世界へ、小さな波紋が大きな波に広がるように、型が出るといわれています。

大本は大正十年と、昭和十年に国家から弾圧を受けました。特に、昭和の第二次大本事件は、大本を地上から抹殺するとまでいわれた、えん罪事件、大弾圧でした。

左図①の通り、第二次大本事件で起こったことが、第二次世界大戦において、六年後の同じ日に、似たようなことが起こっています。

歴史上の型の他に、地理上の型もあります。（左図②参照）

聖師は『日本は世界の胞衣（えな）にあたっておって、世界の地形は日本のそれと相似をしている』と説いています。

本州はユーラシア大陸、北海道は北アメリカ、四国はオーストラリア、九州はアフリカと地形が似ていますが、大陸を流れる川や聳（そびえ）える山、またその土地の天然資源なども、相似していることが多いのです。

世界の廃藩置県

『霊界物語』第六十四巻は、明治の廃藩置県に相当する内容が展開されています。

これにより、日本は文字通り一つの国になったのです。政治や経済が統一され、国内は自由に行き来でき、標準語も使われるようになりました。

『霊界物語』の登場人物マリアは、『吾々は、世界にあらゆる有形無形、この二つの大なる障壁を取り除かねばなりませぬ。有形無形的障害の最大なるものは対外的戦備（警察的武備は別）と国家的領土の閉鎖とであります』と説き、さらに、人間同士、特に宗教間の敵愾心（てきがいしん）を取り除くことが、肝要であると続いています。

聖師は事件の解決後、大本が弾圧を受けたのは神意であって、これにより戦争に協力することなく済んだ、武備撤廃は世界のさきがけだとまで言っています。

大本では、〝万教同根〟のもと、世界の廃藩置県ともいえる世界連邦運動や、正しい食・農を普及し、エスペラントの国際公用語化を目指す活動などを展開しています。

大本に出ることは、日本の、世界の型となることを信じて。

第二次大本事件（大本と日本）

①昭和九年七月二十二日
昭和神聖会発会式
②昭和十年十二月八日
第二次大本事件勃発
大本一斉検挙始まる
③昭和十一年四月十八日
綾部・亀岡両聖地の強制売却と建造物破却開始
④昭和二十年九月八日
大審院にて無罪の判決下る

第二次世界大戦（日本と世界）

①昭和十五年七月二十二日
第二次近衛内閣が成立
②昭和十六年十二月八日
太平洋戦争勃発
特別攻撃隊が真珠湾突入
③昭和十七年四月十八日
東京初空襲。その後空襲は日本全土に及ぶ
④昭和二十六年九月八日
サンフランシスコ講和条約調印

図①

図②

掲載文は、平成二十六年二月十九日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。

「阿づまの光」2014.06.indd 3 14/05/22 12:03

企業繁栄祈願祭

今年で三十二回目を迎えた、企業繁栄祈願祭は、四月二十七日、午後二時三十分から、大本東京本部で執り行われ、七十四人が参拝した。

祭典は、祓式行事に続いて斎主が「企業繁栄祈願祭大神奏上祝詞」を奏上。続いて一同で「天津祝詞」を奏上した。

次いで、斎主が市杵島姫命さまに「企業繁栄祈願祭祝詞」を奏上し、全国から申し込まれた、百九十九社の企業名が読みあげられ、世界経済の発展と繁栄を祈願した。

続いて、各企業の代表一名が玉串を捧奠し、一同で「神言」を奏上、讃美歌を斉唱し祭典を終えた。

祭典後、東光経友会を代表して浅田秋彦会長があいさつをのべ、続いて高取言彦（たかとりことひこ）五興運輸株式会社・代表取締役社長が「生きること 生かされること」と題して記念講演を行った。

東光苑月次祭

東光苑月次祭・市杵島姫命例祭は五月十一日、午前十時三十分から、斎主・和田桂一祭務課長のもと執行され、三百四十人が参拝した。

祭員は神奈川主会、少年祭員は神奈川主会の野田基くん、堀幹矢くん、松倉遼人くん、草野友哉くん、伶人は宮咩会関東支部、大本神諭拝読は木村郡志千葉主会次長、添釜は東京主会玉松分所の皆さんが担当した。

祭典後、モンゴルから国費で東京大学に留学中の、バトエルデネ・トウメンウルジー氏（前大本モンゴル本部事務局長・通称トムさん）があいさつ。

続いて、浅田秋彦東京宣教センター長があいさつし、『新抄大本神諭～三千世界一度に開く梅の花』の刊行を紹介し頒布を呼びかけた。

続いて「共生の世界実現のために」と題して浅田センター長が講話を行い、大本の宗際化活動や世界連邦運動について説いた。

その後、東京主会青年部による『霊界物語』の役割拝読「天開の花」（第四十七巻）が奉納された。

大本公開講座

第百三十五回大本公開講座『出口なお・王仁三郎の世界を語る２０１４』は、五月二十一日午後七時から、港区新橋の航空会館において開催され、出口眞人社会福祉法人愛善信光会理事長が「出口王仁三郎の提言―未来の世界・経済・教育は―」と題して講演した。参加者は五十七人（内、一般三十四人）。

講座では、王仁三郎聖師のお歌を紹介しながら日本人の使命を説き、「日本の精神的、伝統的価値観を大切にして、みろくの世建設に向けて共々に手を携え、まい進させていただきたい」と結んだ。

参加者からは、「日本固有の宗教心は自然への畏敬の念から生まれたと認識した（男性・一般）」等の声が寄せられた。

東光苑祭典・行事予定

6月

8日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・世界平和祈願祭
人類愛善会記念祭典・市杵島姫命例祭

18日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2014」
講題　日本および日本人の使命
～日本は世界の要～
講師　山田歌（総務課主幹宗教協力担当）

29日（日）午前10時～午後4時
東京本部直属信徒研修会

7月

13日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭

16日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2014」
講題　芸術は宗教の母なり
～宗教即生活即芸術～
講師　高木日出喜（大本楽天社事務局主幹）

真の幸福は、お互いが
親切にし合うところにある。
（出口日出麿尊師）

東京本部直属信徒研修会

日　時	6月29日（日） 午前9時半（受付）～午後4時頃
会　場	大本東京本部
参加費	1,000円 ※昼食1回・資料代・記念写真代含む 但し、家族2人目から500円 ※期間外の食費・宿泊費は別途となります
定　員	40人 ※希望の方には宿泊申込を承ります
持ち物	筆記用具、他 ※宿泊される場合は入浴・宿泊具などをご持参ください
内　容	愛善歌の練習・茶席入席・お作品拝観 講話「神祭と霊祭」・「神業奉仕について」 実習「大本宣伝歌の斉唱」 歓ぎの座・総合質問会、等
締　切	6月23日（月）
申込先	東京宣教センター・愛善宣教課

「阿づまの光」2014.06.indd 4　14/05/22 12:03